

地域の「宝」を 未来につなぐ



ふくしま はじめ人

File No.12

いわき市地域おこし協力隊

もり あい あや こ
盛合 文子さん(いわき市)

<プロフィール>

岩手県出身。会社員として働いた後、和紙づくりを学ぶため京都伝統工芸大学へ。平成27年6月に遠野和紙の製作技術継承等を目的とする「地域おこし協力隊」の一員として移住を決意。

迷いなきチャレンジ

以前から興味があった「和紙づくり」を京都で学び、「伝統工芸に携わりたい」という思いが強くなったという盛合さん。学校を卒業後、和歌山県の熊野本宮大社で牛王神符用の紙漉きをしている時に、いわき市の「地域おこし協力隊」隊員の募集を知ったそうです。

「募集を知ってすぐ遠野町への移住を決断しました。移住について、多少親の反対はありました。でも、私自身迷いなくやってみたいと思っていました。両親も納得してくれました。説明会に参加した後、他県での再修行をしながら、町内にある工房『学舎』での活動が始まったんです」



盛合さんが作業する「学舎」

「恩師や家族も、福島県で和紙づくりに挑戦することを応援してくれています。何より支えになるのは、地域の皆さんがとても親切でいろいろ教えてくれること。皆さんにとって、和紙の存在が生活により近くて、遠野が和紙の産地であることに誇りを持っていることを知って、自分の立場の重要性を強く感じています」

みんなで守る「遠野の誇り」

「今の時期は紙漉きの技術向上に必死に取り組んでいます。私が紙を漉くことができるのも、和紙の材料をゼロから作ってくれるボランティアスタッフのおかげです。遠野和紙の最大の特徴は100%地場産の楮。春から秋にかけて畑で楮を育て、刈り取りして紙漉きができるまでの材料作りがとっても大切なんです。私が携わらせていただいている紙漉きの場面で、良い紙が仕上げられないとみんなの努力をムダにしてしまいます。そうならないためにも、遠野和紙を継承できるように、自信を持って満足のいく手漉き和紙を作りたいと思っています」

「近所の方は薪を持ってきてくれたり、『今年の楮の収穫はどう？』など、工房に来て気軽に声をかけてくれます。みんなが遠野和紙を守っているんだなと肌で感じる事ができますね」



和紙の原料となる楮の表皮を取り除くボランティアの皆さん



森林環境税で森林を 守り育てています

～県民一人一人が参画する新たな森林づくり～

私たちは、豊かな森林の中で、おいしい水や澄んだ空気、さまざまな山の恵みを感謝の心を持って享受するほか、多彩な風習や工芸・技術などの森林文化を育み、人や物を大切にする優しい心を深めてきました。

県では、この森林との豊かな関わりを、未来の子どもたちへ引き継いでいくため、森林環境税を導入し、県民と企業の皆さまに支えていただきながら、「県民一人一人が参画する新たな森林づくり」に取り組んでいます。

もり 森林づくり



- 水を浄化し、濁水や土砂崩れを防ぐなどの森林の働きが十分に発揮されるよう、手入れを行うとともに、企業やボランティア、地域の皆さまが行う森林づくりを推進しています。
- 新たに、森林の若返りや、広葉樹林化に取り組みます。
- 森林との絆を回復していくため、里山林の整備を推進し、野生動物との共生のための環境を整えます。

人づくり・心づくり



- 森林の中で行う子どもたちの体験や学習を推進します。
- 森林文化や森林づくりについて知り、触れ合っていただく取り組みを行います。
- 平成30年に開催する全国植樹祭を契機とする、県民参加の森林づくりを一層推進します。

第69回 全国植樹祭 福島県 2018

森林環境税 ※県民税に加算して納めていただいています。

個人 年額1,000円 法人 年額法人県民税均等割額の10%相当額

お問い合わせ

税の仕組み 問 県庁税務課 024(521)7067 福島県税務課 検索

税の使いみち 問 県庁森林計画課 024(521)7425 福島県森林環境税 検索



ふくしまからはじめよう。

Future From Fukushima.

和紙づくりに欠かせない 楮の白皮とトロロアオイの根



人々の思いが詰まった 遠野和紙が完成

遠野和紙とは

クワ科の楮を100%使用した手漉き和紙。丈夫で、年が経過するにつれて、より白くなるという特徴がある。約400年前にいわき地方各地に伝わったとされ、「磐城延紙」のブランドで、江戸時代には江戸や上方に出荷された。武家の記録用紙や障子紙に使われ、現在では学校の卒業証書や市政功労表彰状などに用いられる。

和紙づくりを通して 遠野の魅力を発信

「遠野地区の小・中・高校の卒業証書に私が漉いた紙が使われますので、町の皆さんに『良い紙だね』と言ってもらえたら、とてもうれしいですね。均等な厚さの和紙を漉くのは難しいですが、もっと鍛錬して最高の遠野和紙を仕上げられるようにしたいです」 「遠野に来て早1年。ボランティアスタッフの楮畑仕事の手伝いに追われ他のことに取り組む余裕がありませんでした。今年は遠野町をもっと

知るために、地域の行事にも進んで参加したいと思っています」 「地域の皆さんをはじめ、支えてくれる多くの方々の協力があつてこそ、遠野和紙は受け継がれています。今後は、製作技術をさらにしっかりと身に付けて自分のものにしていくことと、イベントなどを通して、より身近な生活の一部として使われるように、遠野和紙の良さを広く伝えていきたいです」



先人の思いを胸に遠野和紙を後世へ